

## 鋼構造委員会「鋼構造物の素地調整に関する調査研究小委員会」委員の公募

土木学会鋼構造委員会では、以下の研究小委員会を新たに設置いたします。この小委員会に参加いただける方を公募します。本委員会の目的及び内容は以下の通りです。

### <委員会名称>

鋼構造物の素地調整に関する調査研究小委員会

委員長 貝沼重信：九州大学

### <背景と目的>

大気環境に曝される鋼構造物では、飛来海塩や凍結防止剤などの塩類が付着し、雨洗されにくい部位に重度腐食が多数報告されている。重度腐食が一旦、生じると塗替え塗装前の鋼素地調整で腐食孔底部の塩類を含むさびを完全に除去することは困難になる。その結果、塗替え塗装後の早期に進行性の高い塗膜下腐食が局部的に発生・進行するケースが多く、部材破断に至った事例も報告されている。特に、重度腐食した耐候性鋼を無塗装から塗装に仕様変更する場合、普通鋼に比して、さび層が強固で緻密なため、従来の素地調整法では鋼素地を蘇生することが極めて困難になる。そのため、塗装後に塗膜下腐食が発生しやすく、塗装による防食性能が発揮できない場合がある。金属溶射については、鋼素地との密着性を確保するため、塗装に比して、より高品質の鋼素地調整が求められる。しかし、腐食部位の素地調整品質については、十分に検討されていない。また、鋼構造部材の腐食損傷による力学性能低下の対策として、CFRP 材の接着による補修・補強が行われている。この補修・補強については、鋼素地の塩類を含むさびの残留に加え、CFRP と鋼材のガルバニック腐食や接着界面劣化による CFRP 材の剥離が懸念される。以上のことから、鋼構造物を経済的かつ効果的に長寿命化していくためには、前述の鋼素地調整に関する課題を解決し、防食性能と力学性能を長期間維持していくための鋼素地品質を確保することが重要になる。そこで、本委員会では、既設鋼構造物の素地調整に着目し、塗膜、金属溶射、耐候性鋼、CFRP 材の接着を対象とした各素地調整関連技術の鋼構造物への適用性、留意点や課題に加え、最新の知見や新技術などに関する情報を取り纏める。

### <活動期間>

2023年6月～2026年5月（3年間、予定）※旅費、交通費は支給されません

### <公募締切日>

2023年3月31日（金）

### <応募方法>

本委員会に参加を希望される方は、(1)氏名、(2)年齢、(3)所属、(4)連絡先（住所、電話番号、FAX 番号、E-mail アドレス）、(5)特に興味のある検討事項、などについて、下記の応募先まで E-mail でご連絡ください（書式は任意）。応募の際のメールタイトルを「鋼構造物

の素地調整に関する調査研究小委員会委員応募」として下さい。なお、委員数は全体で 30 名程度を予定しています。応募者数によっては希望に添えない場合もございますので、あらかじめご承知おき下さい。若手技術者の応募も歓迎いたします。

<応募先，問い合わせ先>

石井 博典（幹事長）株式会社 横河ブリッジホールディングス 総合技術研究所

〒261-0002 千葉県千葉市美浜区新港 88 番

Tel. 043-247-8411 Fax. 043-247-8412

E-mail : [h.ishii@ybhd.co.jp](mailto:h.ishii@ybhd.co.jp)